

## 思春期女子に対する成人男性の視線と行動に関する研究

杉並区・浜松市の若年女子調査と大人向け雑誌の分析から

分担研究者 村松 泰子<sup>1)</sup>  
研究協力者 佐藤（佐久間）りか<sup>2)</sup> 平野 亜矢<sup>3)</sup>  
（執筆順） 辻 泉<sup>4)</sup> 苫米地 伸<sup>5)</sup> 久保田 京<sup>6)</sup>  
岡井 崇之<sup>7)</sup> 花田 智弘<sup>8)</sup>

### 研究要旨

本研究班は大人の男性が思春期女子に対して取る社会行動とメディア情報との関係を探るべく、平成10年度より少女たちを対象とした質問紙調査および大人向け雑誌における〈女子高生〉関連情報の分析を行なっている。<sup>1)</sup>

10年度に実施した首都圏の街頭調査（制服姿の中高生女子121人対象）では、回答者の約4割強が、街頭で年長の男性から金品を代償としてつきあうよう、誘いの声をかけられた経験を持っていた。このような現象の一般性を探るために、今年度は都内杉並区および静岡県浜松市において無作為抽出された高校就学年齢の女子2,000人を対象として郵送調査を行ない、それぞれ589名、512名から回答を得た。その結果、杉並区でも浜松市でもおよそ5人に1人が金銭の提供を前提とした誘いを受けたことがある、ということがわかり、街中で大人の男性から「性的商品」として扱われる体験が、もはや首都圏の少女たちに限られたものではなくなっていることが明らかになった。また、声をかけられた際の受け止め方や「援助交際」の定義に地域差が見出されたが、「援助交際」関連のメディア情報に触れる機会についても有意な地域差があることから、両者の関係について、今後より丁寧な分析を進めて行く予定である。

また、思春期女子に対するこうした成人男性のまなざしと行動の背景には、マスメディアによる〈女子高生〉の性的記号化が関与しているのではないかという仮説に基づき、昨年度に引き続き90年代における大人向け雑誌における〈女子高生〉関連記事を収集し、全体的傾向の把握を行なった。さらに次年度研究のための基礎作業として、書き手のジェンダーや雑誌ジャンルによる表現の違い、「座談会」「告白」など〈生〉の語りを用いた記事の特性、トレンドセッターとしての〈女子高生〉イメージ、新聞広告など雑誌本体以外の媒体で雑誌記事情報が読まれる状況の把握、など複数の角度からの分析を開始した。

### A. 研究目的

90年代に入って高校3年女子の性体験率が急速に伸び、同年齢の男子のそれを超えたことが複数の調査から明らかになっている。<sup>2)</sup> 思春期男子の性体験率に近年それほど顕著な変化が見られないことを考

えると、思春期女子の性行動の活発化は、彼女らを性対象として選ぶ年長男性の存在を無視しては説明できない。したがって、少女たちの行動変容の原因を、性道徳の崩壊など、少女たちの側の要因に求めて行くだけでなく、年長男性の少女たちに対する行動様式の変容にも目を向ける必要がある。そこで、本研究においては、〈女子高生〉という性的商品を生産し流通させている今日のメディア環境が、年長男性と少女たちの関係性をどのように再編しつつあるのかを探るため、「商品」として扱われる側である少女たち自身の体験や意識の実証的な把握と、その

1) 東京学芸大学教育学部

2) プリンストン大学大学院社会学科博士課程

3) 上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士前期課程

4) 東京都立大学大学院社会科学部社会学専攻修士課程

5) 上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程

6) 東京都立大学大学院社会科学部社会学専攻修士課程

7) 上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士前期課程

8) 東京大学社会情報研究所教育部研究生

商品流通の主たる媒体である大人向け雑誌メディアの分析を並行して行なった。

## < 第一部 > 思春期女子の意識と経験に関する実証的研究

### B . 研究方法

#### 1 . 調査目的

平成 10 年度に J R 新宿駅および小田急線町田駅付近で実施した街頭質問紙調査(回答数 121)では、これらの街頭を訪れる中高生女子のうちおよそ約 4 割強が、25 歳以上と思われる男性から金銭あるいは物品の供与を条件とした交遊の誘いを受けた経験を持つことがわかった。今回の調査では、こうした少女に対する成人男性による勧誘の、より一般的な実態を把握するために、東京都杉並区と静岡県浜松市において、無作為抽出した高校就学年齢の女子 2,000 人を対象とした調査を実施した。

調査地域の選択に際しては、このような現象が東京に特殊なものなのか、あるいは東京以外の地域においても観察されるものなのかを確認することを第一の目的とした。したがって首都圏外でありながら完全な農村部ではなく、市街地化も進行している地方拠点として浜松市(平成 10 年 2 月 1 日現在人口 576,843 人)を選んだ。一方、東京都内では完全な都心ではなく、商業地と住宅地がある程度混在していて人口がおおよそ浜松市と均衡している区として杉並区(平成 10 年 1 月 1 日現在人口 501,561 人)を選択した。

#### 2 . 調査方法

調査地域： 東京都杉並区ならびに静岡県浜松市

調査対象： 1981 年 4 月 2 日～1984 年 4 月 1 日生まれの女性 各地域 1000 名・計 2000 名

調査対象の抽出： 住民基本台帳より無作為 2 段階抽出(各地域 40 地点)

調査時期： 1999 年 11 月初旬～12 月中旬(この間督促 1 回)

調査方法： 質問紙郵送調査(返信用封筒を同封)

有効回答数(率)： 杉並区 589 名(58.9%)

浜松市 512 名(51.2%)

なお、希望者には集計結果を送ると伝えたところ、

約 6 割が送付を希望した。郵送調査への回答回収率の高さに加え、集計結果希望率も考えると、この年齢層の少女の間では、この問題についての関心はかなり高いものと思われる。

### 3 . 調査内容

フェース・シート(3 項目)、制服の着用とそのイメージに関する項目(5 項目)、街中での年長男性との接触体験に関する項目(12 項目)、マスコミなどで描かれる<女子高生>イメージに関する項目(5 項目)など、全 27 項目。

### C . 研究結果

今年度は、主に地域差を見ることを目的に報告する。地域差の検定は原則として二乗検定によった。Q33(テレビや雑誌などマスコミで描かれる<女子高生>イメージのいいところ・悪いところ)および Q35(今の時代に「女子高生であること」のメリット)の自由記述欄については、次回報告に譲ることとする。調査票の各質問内容と集計結果の個別の数値については文末を参照されたい。

#### 1 . 調査回答者の特性(Q1～3)

1999 年 4 月 1 日現在の回答者の平均年齢を見ると、杉並区が 16.04 歳、浜松市が 15.96 歳で有意な差はなかった(t 検定で  $p=0.109$ )。

回答者が通っている学校に関しては、居住地による差が大きい。杉並区では国公立高校 36.8%、私立高校 60.3%と私立高校が多いのに対し、浜松市では国公立高校 62.9%、私立高校 33.0%と国公立高校が多い。また、高校に通っていないという人は、浜松市の方が若干多かった(杉並区 0.8 / 浜松市 2.7%。以下、各地域の比率を記す場合は杉並区 / 浜松市の順に列挙する)。

さらに、共学校 / 女子校の割合を見ると、杉並区では共学校が 51.8%、女子校が 45.9%とさほど大きな差が見られないのに対し、浜松市では共学校が 73.2%、女子校が 26.4%と圧倒的に共学校が多い。また、杉並区ではその他のタイプの高校に通っている人も 2.3%おり、高校のタイプに多様性があると

いえる。これは、私立高校が多いことによるものと考えられる。

## 2. 制服の着用とそのイメージについて (Q4~8)

通学時の制服着用については、浜松市では97.8%が「着ていく」と答えており、ほとんどの学校で制服着用が義務づけられていることがうかがえる。それに対し、杉並区では73.0%にとどまっている。

「制服を着ているときと着ていないときで男性の視線にちがいをを感じるか」という質問に対しては、杉並区では「感じる」36.4%、「感じない」37.3%、浜松市では「感じる」18.8%、「感じない」48.1%となった。「どのようにちがうと思うか」を具体的に聞いたところ、どちらの地域でも、私服のときよりも制服を着ているときの方が、視線を敏感に感じているようだ。「学校がどこかなどよくみてる」「女子高生って感じてみられる」という意見のほか、「若い人は私服の時の方が、中年以上の方は制服の時の方が見てくる」「おじさんの目がイヤらしい」「私服より見られる、特にオヤジ」など、特に中年男性が女子高生を特別視していると感じている回答が多かった。一方、私服の方が意識するという意見も少数だがあり、「私服だと大人っぽく見られる」「制服だとみんないっしょなカンジがするが、私服だと個性が出る」といった回答があった。

地域別に見ると、杉並区では「感じる」人の割合が浜松市の約2倍になっている。自由記述では、杉並区に「ルーズソックスに短いスカートなので、まず足を見てその後顔を見てくる」など、足に視線が集中することを意識している回答が多い。制服のスカートの丈についての規制が、都内の高校と浜松市近辺の高校では異なるのかもしれない。また「サラリーマンのおじさんたちに、制服の方がちかかんされる」「制服だと、キャッチの人は声をかけてこない」などは杉並区のみで見られた回答で、浜松市の回答中にはまったく見られなかった。痴漢被害については、浜松市では一般に自転車やバスによる通学が多いのに対し、杉並区では満員電車での通学が多いことが関係していると思われる。街頭での「キャッチ(セールス)」の多さも東京の特徴であろう。

Q4で見たように、浜松市ではほとんどの高校で制服着用が義務づけられており、高校生が制服を着るのは当たり前になっていて、女子高生自身、制服に対する意識がさほど強くないと思われる。また、杉並区では、援助交際声かけの拠点として、マスメディアでも頻繁に取り上げられる新宿・渋谷・池袋などの繁華街が身近にあり、男性の目に意識的になっていることなども考えられる。地域によって、女子高生を取り巻く環境が異なることがうかがえる。

通学や学校関連行事以外の際にも制服を着ることがあるかという質問には、3割~4割が「着ることがある」と答えている。地域別に見ると、杉並区よりも浜松市の方が通学・学校関連行事以外の制服着用率が若干高い(33.1/41.4%)。制服を着用する理由については、私服を着るのがめんどうだから、あるいは興味がないからという消極的な理由もあれば、女子高生というブランドの象徴として価値があるからという積極的な理由も考えられる。しかし、制服着用時に男性の視線を意識する人が少ないことを考えると、どちらかというと前者のほうが実態に近いかもしれない。

他校のもので着てみたい制服があるかという質問には、4割前後の人があると答えているが、有意な地域差はなかった。具体的な高校名を挙げた人の数は杉並区で119人、浜松市で181人と、全体の2割から3割半に達し、女子高生の制服に対する関心が高いことがわかる。具体的に名前の挙げた学校の数も、杉並区の回答で53校、浜松市の回答では30校と、杉並区の方がかなり多かったが、これは都内の私立高校数の多さを反映しているものと思われる。

さらに、「高校を卒業後、制服を着なくなったらどう感じると思うか」についても聞いてみた。その結果、いずれの地域でも「さびしい」と感じる人が6割近くを占め、「うれしい」と感じる人は1割にも満たなかった。杉並区に比べ、浜松市の方が「別になんとも思わない」と答えている人が多いのは、制服着用が高校生にとって当たり前のものとなっているために、制服への関心や思い入れが弱いためかもしれない。東京では都立高校など制服のない学校がかなり多くあり、制服のデザインで私立高校を選択

するケースもあることから、制服に対するこだわりがあるのだろう。「その他」では、「うれしい、さびしいが半々」「毎日着る服を考えるのが大変」「めんどろ」という意見もあった。

### 3. 街中での年長男性との接触体験について オジサンに声をかけられたことがあるか(Q9~10)

まず始めに年長の男性に声をかけられた事があるかどうかを尋ねた。「年長男性」というのでは言葉としてなじみ難いので、前もって「あなた(注:調査相手)が見て25歳より上だと思ふ男性」を「オジサン」と定義することを伝えた。男性が20代である場合については、このような定義はそぐわないと自由記述欄に述べた回答者がいたが、ほとんどの回答者はこれを納得して回答したものと思われる。

まず、Q9の「オジサンから声をかけられた(ナンパされた)経験はありますか?」という問いに対しては、杉並区では14.0%が「よくある」、38.2%が「1~2回ある」と答えた。浜松市ではそれぞれ16.4%、33.4%で、回答に有意な地域差はなかった。

前回の街頭調査で、都心部である新宿と郊外都市の町田では、声をかけられた経験にほとんど差が無いことがわかっていたが、「援助交際」の拠点といわれる新宿・渋谷といった繁華街をすぐ近くに擁する杉並区と、50万都市とはいえあくまでも地方都市である浜松市で、これほど差がないということは注目に値する。1度でも声をかけられた体験がある人の割合で見た場合、都内の街頭で調査した際には約75%が少なくとも1度はあると答えていたのに比べると、さすがに今回の無作為抽出の調査ではそのように回答する人の割合は低くなっているが、それでもおよそ5割が声をかけられた経験を持っている。但し、このあとのQ11で「何と言って声をかけられたか」と聞いたときに、「無視したので何と言っていたのかわからない」という回答がどちらの地域でも一番多かったことを考えると、Q9で「ある」と答えた中には、単に印象として「ナンパされた」と感じただけのケースも含まれていると考えねばならない。

次にこれまでに声をかけてきたオジサンの年齢

層について聞いたところ、どちらの地域でも20歳代がもっとも多いが、声をかけられた人のうち約半数が30代・40代の男性に声をかけられている。50代の男性に声をかけられた割合については浜松市のほうが有意に高い。60歳以上の場合と合わせて「50歳以上」として検定してみても浜松市の方が有意に高い(24.4/35.9%、 $p<.01$ )。両地域において50~69歳の人口が全人口に占める割合は杉並区23.5%、浜松市25.6%とさほど大きな差がないが、杉並区の場合人口ピラミッドでもっとも突出しているのは第2次ベビーブーム世代に当たる25~29歳の層で、第1次ベビーブーム世代である45~49歳の層よりも多くなっている。浜松市においては2者の関係は逆転しており、第2次ベビーブーム世代が首都圏に流出していることが推察される。20代から30代前半にかけての人口の割合が高い東京では、渋谷・原宿といった拠点に若者が集中する傾向があり、かえって年齢別の棲み分けがさほど進んでいない浜松市のほうが、年配の男性が10代の少女たちと接触を持つ機会が多いのかもしれない。

### オジサンは何を求めていたのか(Q11~13)

オジサンに「何と言って声をかけられたか」を具体的な誘いの内容と「無視した」「その他」を含む計7つの選択肢で聞いた。どちらの地域でも、一番多かったのは「無視したのでわからない」という答え(45.2/54.5%)だが、誘いの内容では、杉並区では「お茶」「食事」「カラオケ」という順に多く、浜松市では「カラオケ」「食事」「お茶」の順になっている。「カラオケ」に加えて「ドライブ」が浜松市に多いのは地域特性であろう。「ホテルに誘われた」経験を持つ人の割合(10.6/13.7%)はその他の誘いに比べると少ないが、全回答者に対する比率で見ても杉並区で5.4%、浜松市で6.8%に達するというのは、決して無視できない値である。

「その他」として具体的に挙がってきたなかで、一番多かったのは「遊ぼう」「遊びに行かない?」といったいわゆる「ナンパ」の誘いだが、中には「援交しない?」「援助交際」という言葉を使って誘うケースもある(杉並区で4人、浜松市では8人が

そのような言葉で誘われたと回答している)。また、わずかながら「道を聞かれた」と答えているものがあるが、この場合本人がそれをナンパあるいは援助交際のきっかけと認識したのか、質問の意図を取り違えて、ごく当たり前に道を聞かれたケースまで「声をかけられた(ナンパされた)」経験に入れてしまったのかは判断がつかない(但し、このようなケースは杉並区で3人、浜松市で2人にすぎない)。さらに「その他」のなかには、「パンツを売って(見せて)欲しい」「あそこを見せてくれ」「自分のあそこを見せてくれ」など、具体的に性的な行為を求められたケースもあった。

さらに「『お金をあげるから』と言われたことはあるか」という質問では、声をかけられた回答者のうちの4割弱(36.0/39.6%)、全体ではおよそ5人に1人(18.5/19.7%)が、金銭供与の申し出を受けた経験を持っていた。ここでも地域差は見られない。具体的に提示された金額について見ると、どちらの地域でも一番多いのが「1万円以上5万円未満」であり、次いで「5万円以上10万円未満」であった。地域的には浜松市より杉並区の方が金額のバラツキが大きい。浜松市では「お金をあげるから」といわれたうちの6割が「1万円以上5万円未満」といわれており、これが一つの相場となっているようだ。杉並区では「10万円以上」といわれたケースが8.4%あるが、これは「月10万円はどう?」といった契約型の援助交際を含むと思われる。

また「何か買ってあげるから」という誘いもあるが、こちらは「お金をあげるから」の半分以下(14.6/13.0%)の割合となっている(地域差はない)。具体的な品名について聞いたところ、漠然と「欲しいもの買ってあげるから」とか「洋服(あるいはバッグ、靴、アクセサリー)」を買ってあげるというものが多くようだが、中には「PRADAの限定バッグ」「ルイ・ヴィトンの手帳」など非常に具体的に商品名を挙げているケースもある。中には「マンション」というものもあった。

いつどこでどのように声をかけられたのか(Q14~18)

次に声をかけられたときの状況として、声をかけられた側およびかけた側の人数について聞いたところ、やはり一人でいるときに声をかけられるケースがおよそ8割と、一番多かった。またオジサンに声をかけられた体験を持つ人の9割方は相手が「一人だった」と答えており、大きな地域差はない。ただ、浜松市では、3人以上のグループで行動しているときに誘われた経験を持つ人も5人に1人の割合でいる。これは杉並区より有意に高い比率だが、浜松市の方がふだんからグループで行動することが多いのかもしれない。そのためか男性の側も浜松市の方が2人以上でアプローチするケースが多いようだ。

また声をかけられたときの服装だが、「制服を着ていた」と「制服のときも私服のときもあった」という回答を合わせると、杉並区では57.6%、浜松市では69.3%と、もともとの制服着用率が高い浜松市の方が「制服時に声をかけられた経験」を持つ人が多い。

声をかけられた場所と時間帯を見てみると、まず場所に関してはかなり地域差が出ている。杉並区では「繁華街の路上」が非常に多いが(60.9/41.8%)、浜松市は「駅(ホーム・改札など)」(47.0/56.3%)のほうが「繁華街」より多く、また杉並区との比較で見ると「住宅街の路上」(21.1/30.9%)および「コンビニ店内・店頭」(4.3/12.5%)が有意に多くなっている。東京では男性が少女に声をかける場が新宿・渋谷・池袋などの繁華街や駅に集中する傾向があるのに対し、浜松市ではそうした繁華街と日常生活空間との間の境界が曖昧なのかもしれない。「その他」のなかにも「帰宅途中の路上」「学校の前」「地元」「町内の祭り」など街の中心部以外を挙げているものがあつた。時間帯の方は、どちらの地域でも「午後5時~8時台」が一番多く、6~7割がその時間帯に声をかけられており、次に多いのは「正午~午後4時台」である。必ずしも深夜まで繁華街に外出していて声をかけられるケースばかりではないことがわかる。

声をかけられた結果何が起きたか(Q19~22)  
次に声をかけられた結果、何か「よいことはあつ

たか」あるいは「こわい目にあったことはあるか」という質問をした。「よかったことがあった」と答えたのは4.3/5.5%とごく少数派である。具体的に何がよかったのかを自由記述形式で回答してもらったところ、もっとも多かったのは「おごってもらえた」「お金がもらえる」といった、損得勘定に基づいた回答だったが、年上の人間と付き合うことで「勉強になった」という答えが3人、さらに逆説的に「自分で自分をよごしてそんなことではした金かせいで、自分を傷つけて」きたこと、さらに「世の中にはこんなにホントにマヌケでアホなオヤジ(人)がたくさんいる」ことに気づけたことがよかった、と答えた人もいた。回答数では地域差がないが、自由記述部分では浜松市の回答は全員が「～してもらえた」のでよかった、といった受け身な表現をしているのに対し、「視野が広がった」というものにせよ、逆説的に「世の中の恐ろしさを知った」というものにせよ、何かを「学んだ」のでよかった、というはすべて杉並区の回答だった。

また、声をかけられたことがあるうちの16.8/17.6%が「こわい目にあった」ことがあると答えており、その多くは誘いを断ったのに「ずっとあとをつけられた」「しつこくついてきた」「どなられた」「体を触られた」といったものである。しかし、中には「食事するだけだったのにホテルにつれてかれそうになった」「ドライブだけと言ったのに、自宅につれて行かれてむりやりエッチされそうになった」「おかされそうになった(レイプ未遂)」といったものから、「その後一ヶ月くらいの間、ストーカーまがいの事をされた」「オヤジにかんきんされ...ぬがされてやられそうになった」「車の中で服とかぬがされて...いろんなトコロさわられた」とほとんど犯罪と言える状況に追い込まれたケースもあった。「こわい体験」に関しては、回答数、内容ともほとんど地域差はなかった。

このように年長男性に声をかけられたことについて、親や友人など身近な人に話しているかどうかについても質問したところ、およそ9割が友だちにはその体験について話しているのに対し、母親にそのことを話したのは4割程度、父親に話したのは1

割強しかなかった(ほとんど地域差はない)。学校の先生にその話をするのは3~4%とごく少数派だ。

「それ以外の人」として具体的に挙げられたもののが大半が「彼氏」で、「バイト先の人」「塾の先生」など保護者や学校関係者以外の大人も少数ながら挙がってきた。98年度に行なった街頭調査で得られた回答によると、親に話さないのは、話す親が心配するだろうという配慮や、服装や行動について批判されるかもしれないという懸念があるというのが主たる理由である。<sup>1</sup>

また、これらの体験をしたのがおおよそいつ頃のことなのかを知るために、「いちばん最近声をかけられたのはいつか」を聞いたところ、声をかけられたことがあるうちの、ほぼ4人に3人が99年に入ってから声をかけられた、と答えており、いわゆる「援助交際」ブームが99年以降下火になっているような傾向は、特に見られなかった。

初めて声をかけられたときの体験(Q23~26)

それでは、これらの少女たちが最初に声をかけられたのは何歳くらいのときなのだろうか。単純集計では、どちらの地域でももっとも多いのが高校1年のとき(27.6/33.6%)、次いで中3(20.1/17.2%)、高2(12.5/14.1%)となる。しかし、回答者のなかにはまだ高校1年に相当する年齢にしかいない人もいることを考えると、むしろ各年齢層ごとに見ていく必要がある。すると、杉並区の15歳を除く両地域のどの年齢層でも、高校1年のときに声をかけられたのが最初だったという答えがもっとも多くなっている。高校に入学するとともに声をかけられやすくなる、というのは、中学時代より遠距離通学となって、駅や繁華街など声をかけられやすい場所を通る機会が増えるからと考えられる。

Q24の「はじめて声をかけられたときにどう思ったか」という質問には、前もって用意した10の選択肢(「その他」を含む)の中から複数回答で答えてもらった。その結果、どちらの地域も「気持ち悪かった」が65.7/77.0%と圧倒的に多かった。次いで「こわかった」(48.2/44.1%)「あぶないと思った」(43.6/40.6%)「腹が立った」(25.1/40.2%)

「何とも思わなかった」(13.9/9.8%)の順で続き、「面白かった」「嬉しかった」などのポジティブな反応はすべて6%以下に留まった。「その他」の回答の中にもポジティブなものはなかった。浜松市では特に「腹が立った」と答える割合が杉並区のそれを大きく上回っている。

Q25の「声をかけてきたオジサンについてどう思ったか」では、6つの選択肢から選んでもらったところ、どちらの地域でも「バカみたい」(49.7/65.2%)「いやらしい」(43.8/46.5%)がかなり多く、「感じがいい」は共に1.6%に留まった。「その他」でもっとも多かったのは「気持ち悪い(あるいはキモイ)」で、そのほかもすべてネガティブな反応であった。浜松市では「バカみたい」と答える割合が、杉並区を大きく上回っているが、「特に何とも思わなかった」という回答については杉並区の方が20.7%と浜松市の13.3%よりやや高くなっており、Q24とともに、浜松市のほうが杉並区よりオジサンから声をかけられたことに対して、感情的にかなりネガティブな反応をしていることが確認された。

その一方で、「はじめて声をかけられたときに実際にどうしたか」という質問では、杉並区と浜松市の地域差はほとんどなく、「無視した」「ことわった」がそれぞれ約4割を占め、「つきあった」と答えたのは、杉並区1.6%、浜松市2.7%に留まった。「その他」も「話だけした」「適当に返事をしておいた」といったものか、「助けを呼んだ」というもので、相手の誘いに乗ったことを示唆するものはなかった。

もし今、声をかけられたらどうするか？(Q27~28)

次に、声をかけられたことのない人も含め、全員に「もし今、オジサンに声をかけられたら、どう感じるか？」(Q27)ということ聞いた。するとやはり「気持ち悪い」がどちらの地域でも約8割に達し、そのあと「危ない」「こわい」「腹が立つ」の順で続いた。「面白い」「楽しい」などのポジティブな反応は5%以下である。この質問では、「腹が立つ」などの項目でも地域差は出なかったが、「その他」の回答のみは杉並区の方が有意に多かった(9.5/5.3%)、

その中で一番多かった回答は「ウザイ」である(これは浜松市の回答にはまったく登場しなかった)。

さらに、「今、声をかけられたらどうするか」(Q28)という質問では、実際に初めて声をかけられたときと同様に、両地域とも「無視する」「ことわる」「逃げる」の順になっているが、今度は杉並区のほうが浜松市より「無視する」と答える傾向が強く(49.4/43.4%)、また浜松市の方が「逃げる」という答えが多かった(12.1/17.2%)。「つきあう」(0.3/1.2%)は非常に少ないが、「その他」(4.3/4.5%)の内容を見てみると、半分以上は「顔がよかったらカラオケぐらいはいい」「話を聞いてみてHOTELとかいなくてもお金くれるなら考える」など、「相手によって」「話の内容によって」はつきあうことを検討する、という趣旨の回答であった。それらも数に入れると「つきあう」の割合はもう少し高くなるはずである。

さて、「今、声をかけられたら」と想定したときの反応は、これまでに実際に声をかけられた経験とどのように関係するのだろうか。両地域のデータをまとめて、声をかけられた経験(Q9)の回答と、Q27やQ28の回答をクロス集計してみたところ、声をかけられて「危ない」「こわい」「気持ち悪い」と感じることは、声をかけられた回数が多い人ほど少なくなることがわかった( $p < .001$ )。調査時点で声をかけられた経験が無い人では、63.0%が「危ない」、60.9%が「こわい」、さらに84.1%が「気持ち悪い」と感じているのに対し、声をかけられた経験について「よくある」と答えた人では、それぞれの割合は、41.9%、37.7%、73.1%となっている。声をかけられたら、「実際にどうするか」という質問の方では、「よくある」派では55.7%が「無視する」と答え、「逃げる」と答えるのは4.8%と少ないが、「1度もない」派では「無視する」44.3%に対し、「逃げる」は19.6%となっており、声をかけられたことが無い人のほうが、警戒心が強い。経験者は「またか」という感じで、相手を適当にあしらう術を身につけているようだ。ちなみに「つきあう」と回答した人8人のうち、7人までが声をかけられた経験を持った人だった。

オジサンと援助交際に関する意識 (Q29~30)

「街の中のオジサンはなぜ女子高生に声をかけるのだと思うか」については、3つまで選択可能という形で質問した。すると、もっとも多かったのは「若い女の子が好きだから」という意見だった(56.2/57.2%)。次に、「女子高生がひっきりやすいと思っているから」(54.5/54.9%)、「女子高生がお金を欲しがっていると思っているから」(42.6/42.2%)というように、男性側の女子高生に対する偏ったイメージを指摘するものもあった。また、「さびしいから」(34.5/39.1%)、「家族に相手にされないから」(30.1/32.5%)、「その他」では「女子高生にしかエラそうにできない」「自分より知恵がない相手なら、自分がダメな所に気づきにくいから、優位に立てると思っている」など中年男性の立場の弱さを指摘する意見もあった。

マスメディアの報道による影響を指摘するものは比較的少なかった。そのなかで、「オジサンはマスコミに影響されているから」という意見には、地域による有意な差がみられた(18.7/12.1%)。杉並区の方がマスメディアの影響にやや意識的であるといえよう。また、「オジサンはお金を持っているから」という意見も杉並区の方がやや多かった(5.4/2.7%)。

次に、回答者にとっての「援助交際」の定義を確認するため、代償のタイプ(現金か物品か)と「交際」の性質(性行為を含むか食事につきあう程度か)でA~Dの4つの状況を想定し、それらを「援助交際」と思うかどうか質問した。その結果、お金もしくはモノをもらってセックスをすることについては9割以上が「援助交際だと思う」と答えた。また、お金もしくはモノをもらって食事などにつきあうことについても7割以上が「援助交際だと思う」と答えた。つまり、回答者の大部分は、何らかの代償があって男性とつきあう場合、セックスをする、しないに関わらず「援助交際」と認識していることがわかった。それに対して、近年のマスメディア報道では「援助交際=売春」としてとらえているものが多い。「援助交際」について、少女たち自身の認識とマスメディアおよび男性の認識にズレが出ていると考

えられる。

ただし、お金をもらう場合にしろ、モノをもらう場合にしろ、「セックスをすること」と「食事などにつきあうこと」の間に20~30ポイントの差があることも事実である。少女たちの側にも「援助交際=売春」という意識が広がっているのか。この差をどのように考えるかは今後の課題のひとつである。

また、お金もしくはモノをもらって食事につきあうことを「援助交際」と見なすかどうかについては地域によって有意な差が見られた。いずれも杉並区の方が高くなっており(「お金」79.8/72.7%、「モノ」74.1/68.8%)、杉並区の方が「援助交際」の定義を広くとらえる人が多いことがわかった。

#### 4. マスコミなどで描かれる<女子高生イメージ>について

「女子高生の援助交際や性」の話題を目にするメディア(Q31)

ここからは、マスコミなどで描かれる<女子高生>イメージ(特に援助交際や性行動に焦点を合わせたもの)について、彼女たち自身がどういうイメージを持っているかを聞いていく。まず「女子高生の援助交際や性」の話題に接するメディアとしてどんなものがあるかを聞いたところ、杉並区、浜松市とも圧倒的に多かったのは、テレビであった(94.2/91.4%)。これはテレビが最も日常的なメディアであることを考えれば妥当な結果であるといえよう。以下、2番目、3番目に多くあげられたのは、杉並区では新聞の記事(38.7%)、若者向け雑誌(36.2%)、浜松市では若者向け雑誌(43.6%)、新聞の記事(34.8%)という結果になった。特に若者向け雑誌における「援助交際」関連の情報に触れている割合は、浜松市のほうが有意に高かった。(但し、注意しなくてはならないのは、何を「若者向け雑誌」と考えるかについては、回答者に任されていることである。『SPA!』などの青年男性向け雑誌を「若者向け」と捉えている可能性がないとはいえない。)

新聞・テレビなどは、特に思春期女子にターゲットを絞ったメディアではないが、一般家庭において彼女たちが接触する機会の比較的多いものだと考え

られる。一方、もっぱら大人を読者として想定したメディアにおける「女子高生の援助交際や性」の描かれ方について、彼女たちはどの程度把握しているのだろうか。まず、大人向け雑誌でこれらの話題に触れるという回答は、杉並区では25.8%、浜松市では24.4%で有意な地域差はない。しかし、そうした雑誌の広告が中心を占めていると思われる新聞の広告や電車や駅の広告については、顕著に地域差が現れる。

電車や駅の広告については、杉並区では34.5%がこれらの広告で「援助交際」関連の情報に接したと答えているのに対し、浜松市では4.1%にとどまっている。これは電車を通学等に利用することが多い杉並区の回答者のほうがいわゆる中吊り広告などに接触する機会も多いからであろう。新聞の広告についても、両地域のパーセンテージ(19.0/10.5%)に有意差が見られた。杉並区と浜松市では主要購読紙が異なっており、掲載されている広告の種類にも多少の違いがある可能性はある。たとえば、浜松市で最も購読率が高いと思われる『静岡新聞』(同紙広報によればおよそ50%)には、『FLASH』『SPA!』『DIME』の3誌の広告は2000年2月現在掲載されていない。しかし、『週刊現代』『週刊ポスト』等の雑誌の広告は『静岡新聞』にも掲載されていることを考えると、この地域差は他にも要因があるものと思われる。

またパーセンテージは低いものの、こうした情報を「あまり目にすることはない」という回答も有意に浜松市の方が高かった(2.5/5.3%)。さらに、目にしたことがあるメディアとしてあげられた7つの選択肢(「その他」も含む)のうち3つ以上に丸をつけたのは、浜松市では全体の31.4%に過ぎないが、杉並区では47.5%が3つ以上の選択肢に丸をつけている(p<.001)。このことから、杉並区の回答者の方がより多くの種類の情報源に接しているといえる。

Q29の「オジサンはなぜ女子高生に声をかけるのだと思うか」という質問に対して、オジサンは「マスコミに影響されているから」という回答を選んだ割合が、杉並区で有意に高かったが、大都市圏では諸々の雑誌広告の存在がその他のメディアと相乗効

果を起こして、思春期女子を大人向けの雑誌で描かれる<女子高生>イメージに対して意識的にさせているのかもしれない。さらに「その他」の具体例として、「学校の授業で」という回答が杉並区で10件、浜松市で5件あった。思春期女子の95%近くが何らかの形で「女子高生の援助交際や性」についてのマスコミ情報に接していると考えられる今日の社会状況の中で、教育システムの側から対抗情報を提供する努力も行なわれているようだ。

雑誌記事見出しにあるような<女子高生>について(Q32)

Q32では、思春期女子がそうした大人向け雑誌で描かれるような<女子高生>イメージの現実性をどのように捉えているかを知るために、以下のA、B、C、3つの記事見出しについて、実際にそのような人が自分の身の回りにはどれだけいるか(「たくさんいる」「1~2人いる」「いない」)そして日本社会全体ではどのくらいいると思うか(「2人に1人くらい」「5人に1人くらい」「10人に1人くらい」「100人に1人くらい」「ほとんどいない」「わからない」)について聞いた。なおこれらの記事見出しについては、第二部の雑誌分析で対象としている実在の記事の中から選び出して、分析しやすいように若干の修正を加えて作成した。

A:「父親のような中年男性との『援助交際』で気軽に金を稼ぐ女子高生が急増中」

B:「大馬鹿者か、抜け目ない天使か。女子高生の心理『パンチラ』1回5000円、『ウリ』なら2万5000円」

C:「アキレタ常連さんの正体 援助交際の常連 繁華街で昼間から ウロつく中年」

AとBの違いについて触れておくと、どちらも「女子高生」という言葉が入っている。その上で、Aの方はまさに現象を表す言葉である「援助交際」という語を含み、その相手として「父親のような中年男性」、さらに「金」の取引を想定したものとなっているが、明らかに性的な行為の関与を示唆する言葉はない。一方Bでは、「パンチラ」「ウリ」といった性的な行為を意味する言葉や具体的な金額を入れてみ

た。Cでは逆に援助交際における買い手側の<オジサン>イメージの一般性について、質問している。

まず記事見出しAにおいては、そのような女子高生が身の回りにどれくらいいると思うかについては有意な地域差が見られた。杉並区、浜松市とも「いない」と答えた割合が一番高いものの(79.2/76.5%)「たくさんいる」と答える割合は浜松市の方がやや高くなっている(1.4/3.9%)。一方、社会全体にどれくらいいると思うかについては、「10人に1人くらい」と「100人に1人くらい」がそれぞれ3割前後となっているが、有意な地域差はなかった。記事見出しBについても、身の回りには「いない」と答える人が一番多く(89.6/87.7%)社会全体についても、「100人に1人くらいいる」と答えた人が一番多くなっている(30.7/31.2%)が、どちらも有意な地域差はなかった。

記事見出しAとBを比較して述べるならば、性的な行為に言及していないAでは、そういう人が自分の周囲にも「いる」と答える率(「たくさんいる」と「1~2人いる」を合わせたパーセンテージが20.9/23.5%)が、具体的に行為や金額を描写したB(10.4/12.4%)の倍近く高い。社会全体として見る場合も、Aでは「10人に1人」と答える率が29.9/31.8%と、Bの24.3/22.6%よりやや高くなっている。

なお、8~9割の回答者が身近に「援助交際」をしている女子高生が「いない」と答えているにもかかわらず、3~4割の人が社会全体として見たときにはそういう女子高生が10人に1人以上「いる」と答えている。自分たちが実体験から感じ取っているより、世間ではもっと盛んに「援助交際」が行なわれているに違いないと思っているのであろう。そうした「世間」のイメージの形成にはメディア情報が大きく関与しているものと思われる。

記事見出しCについても、身の回りでは両地域とも「いない」とする人が大多数を占め(91.8/88.6%)社会全体では「100人に1人くらいいる」とする人が一番多かった(28.1/28.6%)が、いずれも有意な地域差はなかった。Q12においてはほぼ5人に1人が「『お金をあげるから』といわれたことがある」

と答えているにもかかわらず、身の回りに「いない」とする人がこれほど多いのは、「身の回り」といったときに、父親や親戚、教師などの日常的に接している大人を想定したからではないかと思われる。社会全体では32.2/28.5%が10人に1人以上「いる」と思っている。

#### よく読む雑誌(Q34)

Q31では「女子高生の援助交際や性」についての情報を目にするメディアとして若者向け雑誌が両地域において上位に入っていたが、彼女たちが普段どんな雑誌を読んでいるのか、4つまで自由回答してもらった。全部で100を超える雑誌名が挙がってきたが、今回はそれぞれの地域の上位10誌までについて記しておく。一見してわかるように、両地域ともほぼ同じような陣容となっていて、1位、2位は『non-no』(36.0/36.5%)『プチセブン』(17.8/24.4%)で共通している。しいて言えば、いわゆるコギャル系のファッションを紹介する雑誌である『egg』は浜松市のほうの割合が杉並区のほぼ2倍となっている(10.4/21.9%、 $p<.001$ )ことが挙げられる。同系統の雑誌である『Cawaii!』もやはり浜松市のほうが読んでいる人の割合が多い(8.1/12.1%、 $p<.05$ )。一方、大人向けのファッション雑誌である『an an』(6.8/4.1%、 $p<.05$ )では杉並区の方がやや割合が高かった。

#### D. 考察およびE. 結論

今回の報告の主眼は現状の把握であり、特に東京と地方の地域差の有無を確認することに重点が置かれた。その結果得られたもっとも重要な知見は、現時点で杉並区と浜松市では、年長男性から金銭を代償とした誘いを受けた経験を持っている思春期女子の割合に差がない、ということである。「援助交際」は決して東京や首都圏に限られた現象ではないのである。もっとも、「援助交際」がよく言われるように、東京において発生し地方へと伝播して行ったものだと仮定した場合(この仮定も検証が必要だが)、現時点で金銭を代償に誘われた経験が両地域で同レベルになっているということが、既に「援助交際」が全

国的な現象になっているということを示唆するのが、あるいは東京では既に下火になっているものが、今浜松でブームになりつつあったままたま同レベルの経験率となっていることを表しているのかはここでは結論を出せない。

しかしその一方で、制服を着ているときの男性の視線に対する意識、実際に声をかけられたときの反応、マスコミが年長男性の行動に影響しているという認識、「女子高生の援助交際や性」についての話題を目にするメディアの種類など、有意な地域差が見出された質問項目もある。それらの結果から考察すると、杉並区の少女たちの方が浜松市の少女たちより、自分たちが「性的な商品」とみなされていることをより明確に意識している可能性が高いと言える。杉並区の少女たちは、電車の車内広告で男性誌の「援助交際」関連の記事見出しを目にする機会が豊富にあり、特に制服姿で電車通学している場合は、浜松市の女子高生よりはるかに痴漢に遭うリスクが高い。そういう環境の中にあって、自分たちが成人男性の目にどう映っているかについての予備知識を持っていると考えられるのである。実際に誘われたときの拒否反応が浜松市の少女たちほど強くないのも、年長男性がマスコミに影響されて行動していると答える人が多いのも、そのせいだと考えられる。

また、浜松市の少女たちの方が「援助交際」を性的な関係に限定する傾向がやや強かったことも興味深い。確かに浜松市でも回答者の7割は単に食事やカラオケに付き合ってお小遣いをもらうことも「援助交際」に含めている。しかし、そういう緩やかな捉え方をせずに、敢えて「援助交際」を売春と同義と捉えることは、少女たちにとってどういう意味があるのだろうか。もし、援助交際を望む男性の側が「援助交際=売春」と捉えているのであれば、実際の出会いの場でも相互の定義にずれがなく、誤解が生まれ難いということがあるだろう。つまり、「エンコーしない？」という誘いがあったときに、セックス抜きでお小遣いが稼げる「いい商売」を想定してしまうと、相手が本当は「援助交際=売春」と思いこんでいる場合でも誘いに乗る可能性があるため、そういう意味では、むしろ少女たちがはっきりと「援

助交際=売春」と認識した方が意図しない結果を招く危険を回避できる、ということはあるだろう。

しかし、その一方で援助交際が売春に限定されるということは、男性主導で関係性の定義が行なわれる、ということでもある。本来「援助交際」がテレクラやデークラなどの市場化された出会いの場において、それなりに高い交渉能力を持った少女たちが年長男性と多様な契約関係を取り結ぶ際に用いた言葉だったと考えると、「援助交際=売春」という図式が定着するということは、少女たちの側の関係性を定義する力が弱まっていることをも意味するのではないか。援助交際をより広く捉えている杉並区の少女たちは、自分たちの商品価値を自覚しているだけに、年長男性との交渉能力に自信があるのかもしれない。年長男性とつきあって人生勉強になったと答える人が多いのも杉並区のほうである。また、「援助交際」発祥の地とされる東京ではこの言葉が比較的緩やかに定義されていたとしても、それが地方に伝播する過程でマスメディアによる定義（すなわち売春と同義とするもの）が優先された、ということも考えられる。このような地域差が何を物語っているのか、ということも、今後Q33 およびQ35の自由記述欄の分析、ならびに地域以外の要素にも注目したより丁寧な分析を通して明らかにされるであろう。

（文責 佐藤（佐久間）りか、平野亜矢、辻泉）

#### 参考文献

<sup>1</sup>平成10年度厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書（第2/6）

<sup>2</sup>日本性教育協会「青少年の性に関する調査」1987、1993；東京都性教育研究会「中・高生の性意識・性行動に関する調査」1987、1990、1993、1996、1999

(資料) 最近の<女子高生>イメージに関する調査質問項目

まず、あなた自身についておたずねします。

Q 1 . あなたの年齢を教えてください。

年齢： 歳 ( 1 9 9 9 年 4 月 1 日現在でお願いします。)

Q 2 . あなたが現在通っている学校について、あてはまる番号に をしてください。

- 1 . 国公立高校 ( 都立、県立、市立など )
- 2 . 私立高校
- 3 . 高等専門学校
- 4 . 各種学校・専門学校
- 5 . 学校には通っていない
- 6 . その他 ( )

→ 5、6 と答えた人はQ 9 へ

[ Q 2 で 1、2、3、4 と答えた人に質問します ]

Q 3 . あなたの通っている学校は共学校ですか、女子校ですか。あてはまる番号に をしてください。

- 1 . 共学校
- 2 . 女子校
- 3 . その他 ( )

学校の制服とそのイメージについておたずねします。

Q 4 . あなたは学校に通うとき、制服 ( 標準服 ) を着ていきますか。あてはまる番号に をしてください。

- 1 . 着ていく
- 2 . 着ていかない

→ 2 と答えた人はQ 9 へ

[ Q 4 で 1 と答えた人に質問します ]

Q 5 . あなたは制服 ( 標準服 ) を着ているときと着ていないときで、男性の視線にちがいを感じますか。あてはまる番号に をしてください。

- 1 . 感じる
- 2 . 感じない
- 3 . わからない

どのようにちがうと思いますか。 ( 自由記述 )

Q 6 . あなたは通学や学校関連行事以外のときにも制服 ( 標準服 ) を着ることがありますか。あてはまる番号に をしてください。

- 1 . ある
- 2 . ない

Q 7 . あなたにはどこかよその学校で、そこの制服を着てみたいという学校はありますか。あてはまる番号に をしてください。ある方は学校名もお書きください。

- 1 . ある ( 学校名 )
- 2 . ない

Q 8 . あなたが高校を卒業して制服を着なくなったら、どう感じると思いますか。次の中からあてはまる番号に をしてください。

- 1 . うれしい
- 2 . さびしい
- 3 . 別に何とも思わない
- 4 . その他 ( )

[ 全員お答えください ]

街の中のオジサンたちについて、あなたの体験をおたずねします。

ただしここでは、あなたが見て25歳より上だと思ふ男性を「オジサン」と呼ぶことにして、質問に答えてください。

Q 9 . あなたはオジサンから声をかけられた ( ナンパされた ) 経験はありますか。次の中からあてはまる番号に をしてください

- 1 . よくある
- 2 . 1 ~ 2 回ある
- 3 . ない

→ 3 と答えた人はQ27 へ

[ Q 9 で 1、2 と答えた人に質問します。これまでの経験全部についておたずねします ]

Q10. あなたはこれまでに何歳ぐらいのオジサンに声をかけられましたか。次の中から当てはまる番号すべてに をしてください。(何度も声をかけられている場合など、いくつ をつけてもかまいません。)

- |          |            |
|----------|------------|
| 1. 20 歳代 | 4. 50 歳代   |
| 2. 30 歳代 | 5. 60 歳代以上 |
| 3. 40 歳代 |            |

Q11. あなたはこれまでにオジサンから何とって声をかけられましたか。次の中から当てはまる番号すべてに をしてください。

- |              |                         |
|--------------|-------------------------|
| 1. お茶に誘われた   | 5. ドライブに誘われた            |
| 2. 食事に誘われた   | 6. 無視したので何と言っていたのかわからない |
| 3. カラオケに誘われた | 7. その他 ( )              |
| 4. ホテルに誘われた  |                         |

Q12. あなたはこれまでにオジサンから「お金をあげるから」といったことを言われたことはありますか。あてはまる番号に をしてください。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

1 と答えた人に質問します。オジサンはいくらくれると言いましたか。

次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 10 万円以上        | 4. 1 万円未満     |
| 2. 5 万円以上 10 万円未満 | 5. 金額は言われなかった |
| 3. 1 万円以上 5 万円未満  |               |

Q13. あなたはオジサンから「何かを買ってあげるから」といったことを言われたことはありますか。あてはまる番号に をしてください。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|
- 何を「買ってあげる」と言われましたか。(自由記述)

Q14. オジサンから声をかけられたとき、あなたは何人でいましたか。次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |           |           |             |
|-----------|-----------|-------------|
| 1. 1 人だった | 2. 2 人だった | 3. 3 人以上だった |
|-----------|-----------|-------------|

Q15. 声をかけてきたオジサンは何人でいましたか。次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |           |           |             |
|-----------|-----------|-------------|
| 1. 1 人だった | 2. 2 人だった | 3. 3 人以上だった |
|-----------|-----------|-------------|

Q16. オジサンから声をかけられたとき、あなたはどんな服装をしていましたか。次の中からあてはまる番号を 1 つだけ選んで をしてください。

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1. 制服(標準服)を着ていた | 3. 制服のときも私服のときもあった |
| 2. 私服を着ていた      | 4. その他 ( )         |

Q17. オジサンから声をかけられたとき、あなたはどんな場所にいましたか。次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. ファーストフードの店内や店頭      | 6. 駅(ホームや改札口など) |
| 2. ファミリーレストランの店内や店頭    | 7. 繁華街の路上       |
| 3. カラオケの店内や店頭          | 8. 住宅街の路上       |
| 4. コンビニの店内や店頭          | 9. その他 ( )      |
| 5. デパートやファッションビルの中や入り口 |                 |

Q18. オジサンから声をかけられたとき、だいたい何時くらいでしたか。次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1. 午前 6 時~午前 8 時台  | 4. 午後 5 時~午後 8 時台  |
| 2. 午前 9 時~午前 11 時台 | 5. 午後 9 時~午後 11 時台 |
| 3. 正午~午後 4 時台      | 6. 午前 0 時~午前 5 時台  |



[ここからは全員お答えください]

街の中で女子高生に声をかけてくるオジサンについて、今度は想像しながらお答えください。

Q27. もしあなたが今、オジサンから声をかけられたとしたら、あなたはどのように感じますか。次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1. 面白い          | 6. あぶない    |
| 2. 楽しい          | 7. こわい     |
| 3. うれしい         | 8. 気持ち悪い   |
| 4. 得した、ラッキーだと思う | 9. 腹が立つ    |
| 5. なんとも思わない     | 10. その他( ) |

Q28. もしあなたが今、オジサンから声をかけられたとしたら、あなたはどうしますか。次の中からあてはまる番号1つだけに をしてください。

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. つきあう | 4. 逃げる    |
| 2. ことわる | 5. その他( ) |
| 3. 無視する |           |

Q29. 街の中のオジサンは、どうして女子高生に声をかけるのだと思いますか。あなたが主な理由と考えるものを次の中から3つだけ選んで、番号に をしてください。

- オジサンは...
1. 家族に相手にされないから
  2. さびしいから
  3. 若い女の子が好きだから
  4. 女子高生がひっきりやすいと思っているから
  5. お金を持っているから
  6. 女子高生がお金を欲しがっていると思っているから
  7. エッチでいやらしいから
  8. 女子高生がエッチでいやらしいと思っているから
  9. マスコミに影響されているから
  10. 女子高生がマスコミに影響されていると思っているから
  11. その他( )

Q30. あなたは、はじめて会った男の人と次のA～Dのことをするのを「援助交際」だと思いませんか、思いませんか。それぞれについてあてはまると思う番号に をしてください。

- |                                 |       |         |
|---------------------------------|-------|---------|
| A. お金をもらってセックスすること              | 1. 思う | 2. 思わない |
| B. お金をもらって食事などにつきあうこと           | 1. 思う | 2. 思わない |
| C. 服・バッグなどモノを買ってもらってセックスすること    | 1. 思う | 2. 思わない |
| D. 服・バッグなどモノを買ってもらって食事などにつきあうこと | 1. 思う | 2. 思わない |

マスコミなどで描かれる<女子高生>のイメージについて、あなたの考えをおたずねします。

Q31. あなたは「女子高生の援助交際や性」といった話題についてどんなところで見たり聞いたりしますか。次の中からあてはまる番号すべてに をしてください。

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1. 若者向け雑誌で | 5. 新聞の広告欄で      |
| 2. 大人向け雑誌で | 6. 電車や駅の広告で     |
| 3. テレビで    | 7. その他( )       |
| 4. 新聞の記事で  | 8. あまり目にすることはない |

Q32. オジサンが読んでいるような雑誌には、例えば以下のAやBやCのような「女子高生の援助交際や性」をテーマにした記事がのっています。そうした記事の中の<女子高生>や<大人>のイメージと、自分のまわり、また社会一般の女子高生や大人とを比べて、あなたはどのように思いますか？

A. 「父親のような中年男性との『援助交際』で気軽に金を稼ぐ女子高生が急増中」

Q. あなたのまわりに、そのような女子高生はいますか。

1. たくさんいる      2. 1~2人いる      3. いない

Q. 社会全体でみたら、そのような女子高生はどのくらいいると思いますか。

次の中であなたが一番近いと思うものを選んでください。

1. 2人に1人くらいいる      4. 100人に1人くらいいる  
2. 5人に1人くらいいる      5. ほとんどいない  
3. 10人に1人くらいいる      6. わからない

B. 「大馬鹿者か、抜け目ない天使か。女子高生の心理 『パンチラ』1回5000円、  
『ウリ』なら2万5000円」

Q. あなたのまわりに、そのような女子高生はいますか。

1. たくさんいる      2. 1~2人いる      3. いない

Q. 社会全体でみたら、そのような女子高生はどのくらいいると思いますか。

次の中であなたが一番近いと思うものを選んでください。

1. 2人に1人くらいいる      4. 100人に1人くらいいる  
2. 5人に1人くらいいる      5. ほとんどいない  
3. 10人に1人くらいいる      6. わからない

C. 「アキレタ常連さんの正体 援助交際の常連 繁華街で昼間から ウロつく中年」

Q. あなたのまわりに、そのような人はいますか。

1. たくさんいる      2. 1~2人いる      3. いない

Q. 社会全体でみたら、そのような人はどのくらいいると思いますか。

次の中であなたが一番近いと思うものを選んでください。

1. 2人に1人くらいいる      4. 100人に1人くらいいる  
2. 5人に1人くらいいる      5. ほとんどいない  
3. 10人に1人くらいいる      6. わからない

Q33. テレビや雑誌などのマスコミで描かれる<女子高生>のイメージについて、あなたがいいと思うところ、イヤだと思うところがあれば、お書き下さい。

いいところ:(自由記述)

イヤなところ:(自由記述)

Q34. あなたはいつもどんな雑誌を読みますか。よく読む雑誌を4つまであげてください。

(自由記述)

Q35. 今の時代に「女子高生であること」には、どんなよい点があると思いますか。

ご自由にお書き下さい。(自由記述)

最後に次の2つにお答えください。

今回のアンケートの結果はみなさんにお答えいただいた後、集計します。その結果を送ってほしいですか。あてはまる方に をしてください。

1. 送ってほしい      2. いない

今回書いていただいたことについて、あとから調査員がお訪ねして直接インタビューさせていただくことはできますか。あてはまる番号に をしてください。なおその場合の謝礼は別に差し上げます。

1. インタビューされてもよい      2. インタビューはされたくない

(別表) 集計結果一覧

杉並区と浜松市の回答分布について 二乗検定を行い、有意差のあるものを次のとおり示した。

\*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

複数回答の質問については、各選択肢ごとの地域差の検定結果を示した。

Q 1 . 調査対象の年齢

N(回答者数)	杉並区 (589)	浜松市 (512)
15歳	30.9%	35.5%
16歳	33.8	32.4
17歳	35.3	32.0

Q 2 . 通っている学校について

N(回答者数)	杉並区 (589)	浜松市 (512)
国公立	36.8%	62.9%
私立	60.3	33.0
通っていない	0.8	2.7
その他	2.0	1.4

\*\*\*

Q 3 . 共学校か女子校か

(学校に通っている人のみ)

N(回答者数)	杉並区 (575)	浜松市 (493)
共学校	51.8%	73.2%
女子校	45.9	26.4
その他	2.3	0.4

\*\*\*

Q 4 . 通学時に制服を着ていくか

(学校に通っている人のみ)

N(回答者数)	杉並区 (571)	浜松市 (492)
着ていく	73.6%	97.8%
着ていかない	26.4	2.2

\*\*\*

Q 5 . 制服を着ている時と着ていない時で  
男性の視線に違いを感じるか

(通学時に制服を着ていく人のみ)

N(回答者数)	杉並区 (418)	浜松市 (480)
感じる	36.4%	18.8%
感じない	37.3	48.1
わからない	26.3	33.1

\*\*\*

Q 6 . 通学時以外に制服を着ることが  
あるか (通学時に制服を着ていく人のみ)

N(回答者数)	杉並区 (418)	浜松市 (481)
ある	33.3%	41.4%
ない	66.7	58.6

\*

Q 7 . 他校で着てみたいと思う制服の学校は  
あるか (通学時に制服を着ていく人のみ)

N(回答者数)	杉並区 (412)	浜松市 (475)
ある	38.3%	44.4%
ない	61.7	55.6

Q 8 . 高校卒業後、制服を着なくなったら  
どう感じるか

(通学時に制服を着ていく人のみ)

N(回答者数)	杉並区 (418)	浜松市 (478)
うれしい	8.9%	7.9%
さびしい	58.6	59.6
何とも思わない	22.5	28.0
その他	10.0	4.4

\*\*

Q9. オジサンに声をかけられた経験について

	杉並区 (587)	浜松市 (512)
N(回答者数)		
よくある	14.0 %	16.6 %
1～2回ある	38.2	33.4
ない	47.9	50.0

Q10. 声をかけたオジサンの年齢層(声をかけられたことのある人のみ;複数回答)

	杉並区 (303)	浜松市 (256)
N(回答者数)		
20歳代	58.1 %	60.9 %
30歳代	54.5	52.0
40歳代	50.5	53.9
50歳代 **	21.8	31.6
60歳代以上	6.6	9.0

Q11. どのように声をかけられたか(声をかけられたことのある人のみ;複数回答)

	杉並区 (303)	浜松市 (255)
N(回答者数)		
お茶に誘われた **	31.0 %	21.2 %
食事に誘われた	26.1	21.6
カラオケに誘われた	25.1	30.6
ホテルに誘われた	10.6	13.7
ドライブに誘われた ***	8.9	19.6
無視したのでわからない *	45.2	54.5
その他	33.7	32.2

Q12. 「お金をあげるから」と言われたことがあるか(声をかけられたことのある人のみ)

	杉並区 (303)	浜松市 (255)
N(回答者数)		
ある	36.0 %	39.6 %
ない	64.0	60.4

提示された金額について(「お金をあげるから」と言われたことがある人のみ;複数回答)

	杉並区 (107)	浜松市 (100)
N(回答者数)		
10万円以上 *	8.4 %	1.0 %
5万円以上10万円未満	22.4	16.0
1万円以上5万円未満 **	42.1	63.0
1万円未満	11.2	11.6
具体的金額はなし	49.5	42.0

Q13. 「何か買ってあげるから」と言われたことがあるか（声をかけられたことのある人のみ）

	杉並区 (301)	浜松市 (254)
N(回答者数)		
ある	14.6 %	13.0 %
ない	85.4	87.0

Q14. 声をかけられたときの対象者の人数（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

	杉並区 (304)	浜松市 (256)
N(回答者数)		
1人	78.0 %	82.0 %
2人	42.8	49.2
3人以上 *	12.2	19.5

Q15. 声をかけられたときのオジサンの人数（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

	杉並区 (304)	浜松市 (256)
N(回答者数)		
1人	93.4 %	89.8 %
2人	22.7	27.0
3人以上	8.2	12.9

Q16. 声をかけられたときの服装（声をかけられたことのある人のみ）

	杉並区 (302)	浜松市 (254)
N(回答者数)		
制服（標準服）を着ていた	24.5 %	25.2 %
私服を着ていた	42.4	30.7
制服の時も私服の時もあった	33.1	44.1

\*\*

Q17. 声をかけられた場所（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

	杉並区 (304)	浜松市 (256)
N(回答者数)		
ファーストフード店内・店頭	3.9 %	5.5 %
ファミリーレストラン店内・店頭	1.0	3.1
カラオケ店内・店頭	5.3	4.7
コンビニ店内・店頭 ***	4.3	12.5
デパートなどの中・入り口	20.1	24.6
駅（ホーム・改札） *	47.0	56.3
繁華街の路上 ***	60.9	41.8
住宅街の路上 ***	21.1	30.9
その他	15.1	18.0

Q18. 声をかけられた時間帯（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

N（回答者数）	杉並区 （304）	浜松市 （256）
午前6時～午前8時台	7.6 %	8.6 %
午前9時～午前11時台 *	7.2	13.3
正午～午後4時台	43.8	37.9
午後5時～午後8時台	64.8	71.9
午後9時～午後11時台	31.6	34.8
午前0時～午前5時台	3.6	6.6

Q19. これまでに声をかけられて、あるいはつきあってよいことはあったか  
（声をかけられたことのある人のみ）

N（回答者数）	杉並区 （302）	浜松市 （254）
ある	4.3 %	5.5 %
ない	95.7	94.5

Q20. 声をかけられたとき、無視したり断ったり、あるいはつきあってこわい目にあったことはあるか（声をかけられたことのある人のみ）

N（回答者数）	杉並区 （304）	浜松市 （256）
ある	16.8 %	17.6 %
ない	83.2	82.4

Q21. 声をかけられた経験があることを誰かに話したか（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

N（回答者数）	杉並区 （304）	浜松市 （256）
母親	38.2 %	40.2 %
父親	11.5	12.9
きょうだい	18.4	19.5
友だち	86.2	91.0
学校の先生	3.0	3.9
それ以外の人	9.5	7.4
誰にも話さなかった	11.8	8.2

Q22. いちばん最近声をかけられた時期（声をかけられたことのある人のみ）

N（回答者数）	杉並区 （304）	浜松市 （256）
今年	74.3 %	78.5 %
昨年	17.5	15.2
おととしよりも前	8.3	6.3

Q23．はじめて声をかけられた時期（声をかけられたことのある人のみ）

N（回答者数）	杉並区 （303）	浜松市 （256）
小学生のとき	13.5 %	7.8 %
中学1年	3.0	4.7
中学2年	12.8	10.5
中学3年	20.1	17.2
高校1年	27.6	33.6
高校2年	12.5	14.1
高校3年	3.3	2.3
わからない	7.2	9.8

Q24．はじめて声をかけられたときどう思ったか（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

N（回答者数）	杉並区 （303）	浜松市 （256）
面白かった	5.6 %	5.1 %
楽しかった	1.7	0.8
うれしかった	3.0	2.0
得した、ラッキーだと思った	0.7	1.2
なんとも思わなかった	13.9	9.8
あぶないと思った	43.6	40.6
こわかった	48.2	44.1
気持ち悪かった **	65.7	77.0
腹が立った ***	25.1	40.2
その他	11.9	7.0

Q25．はじめて声をかけられたとき、そのオジサンをどう思ったか（声をかけられたことのある人のみ；複数回答）

N（回答者数）	杉並区 （304）	浜松市 （256）
感じがいい	1.6 %	1.6 %
いやらしい	43.8	46.5
かわいそう	11.5	10.5
バカみたい ***	49.7	65.2
特になんとも思わなかった *	20.7	13.3
その他	22.7	19.1

Q26．はじめて声をかけられたとき、どうしたか（声をかけられたことのある人のみ）

N（回答者数）	杉並区 （304）	浜松市 （256）
つきあった	1.6 %	2.7 %
ことわった	37.2	37.1
無視した	42.4	40.2
逃げた	14.5	15.2
その他	4.3	4.7

Q27. 今、声をかけられたら、どう感じるか (以下全員回答; 複数回答)

N (回答者数)	杉並区 (587)	浜松市 (512)
面白い	4.8 %	3.9 %
楽しい	0.9	0.2
うれしい	1.2	1.8
得した、ラッキーだと思う	1.0	1.0
なんとも思わない	12.1	11.7
あぶない	56.9	53.9
こわい	51.8	52.0
気持ち悪い	78.9	80.3
腹が立つ	36.8	38.7
その他 **	9.5	5.3

Q28. 今、声をかけられたら、どうするか

N (回答者数)	杉並区 (587)	浜松市 (511)
つきあう	0.3 %	1.2%
ことわる	33.9	33.7
無視する	49.4	43.4
逃げる	12.1	17.2
その他	4.3	4.5

\*

Q29. オジサンはなぜ女子高生に声をかけるのだと思うか (3つ選択)

N (回答者数)	杉並区 (589)	浜松市 (512)
家族に相手にされないから	30.1 %	32.5%
さびしいから	34.5	39.1
若い女の子が好きだから	56.2	57.2
女子高生がひっきりやすと思っているから	54.5	54.9
お金を持っているから *	5.4	2.7
女子高生がお金を欲しがっていると思っているから	42.6	42.2
エッチでいやらしいから	30.9	32.2
女子高生がエッチでいやらしいと思っているから	7.6	9.8
マスコミに影響されているから **	18.7	12.1
女子高生がマスコミの影響を受けているから	7.8	7.6
その他	7.5	4.9

Q30. はじめて会った男の人と以下のことをするのを「援助交際」と思うか

N (回答者数)	杉並区 (588)	浜松市 (512)
お金をもらってセックスをすること	98.6 %	99.0 %
お金をもらって食事などにつきあうこと **	79.8	72.7
モノをもらってセックスすること	97.1	98.0
モノを買ってもらって食事などにつきあうこと *	74.1	68.8

Q31. 「女子高生の援助交際や性」の話題を目にするメディアはどれか

	杉並区 (589)	浜松市 (512)
N(回答者数)		
若者向け雑誌で *	36.2 %	43.6 %
大人向け雑誌で	25.8	24.4
テレビで	54.3	45.7
新聞の記事で	38.7	34.8
新聞の広告欄で ***	19.0	10.5
電車や駅の広告で ***	34.5	4.1
その他 *	8.0	4.9
あまり目にすることはない *	2.5	5.3

Q32. 雑誌記事の見出しについて

A 「父親のような中年男性との『援助交際』で気軽に金を稼ぐ女子高生が急増中」

Aのような女子高生がまわりにいると思うか

	杉並区 (586)	浜松市 (511)
N(回答者数)		
たくさんいる	1.4 %	3.9 %
1～2人いる	19.5	19.6
いない	79.2	76.5

\*

Aのような女子高生が社会にどのくらいいると思うか

	杉並区 (588)	浜松市 (506)
N(回答者数)		
2人に1人くらいいる	1.0 %	0.6 %
5人に1人くらいいる	8.5	11.7
10人に1人くらいいる	29.9	31.8
100人に1人くらいいる	33.2	27.7
ほとんどいない	11.6	10.7
わからない	15.8	17.6

B 「大馬鹿者か、抜け目ない天使か。女子高生の心理『パンチラ』1回5000円、『ウリ』なら2万5000円」

Bのような女子高生がまわりにいると思うか

	杉並区 (588)	浜松市 (511)
N(回答者数)		
たくさんいる	0.7%	2.0%
1～2人いる	9.7	10.4
いない	89.6	87.7

Bのような女子高生がどのくらい社会にいると思うか

N (回答者数)	杉並区 (584)	浜松市 (504)
2人に1人くらいいる	1.4 %	2.2 %
5人に1人くらいいる	6.8	7.3
10人に1人くらいいる	24.3	22.6
100人に1人くらいいる	30.7	31.2
ほとんどいない	19.3	14.1
わからない	17.5	22.6

C「アキレタ常連さんの正体 援助交際の常連 繁華街で昼間から ウロつく中年」

Cのような人がまわりにいると思うか

N (回答者数)	杉並区 (586)	浜松市 (507)
たくさんいる	2.6 %	2.8 %
1～2人いる	5.6	8.7
いない	91.8	88.6

Cのような人が社会にどのくらいいると思うか

N (回答者数)	杉並区 (577)	浜松市 (497)
2人に1人くらいいる	1.0 %	1.4 %
5人に1人くらいいる	7.1	8.0
10人に1人くらいいる	24.1	19.1
100人に1人くらいいる	28.1	28.6
ほとんどいない	15.1	13.3
わからない	24.6	29.6

Q34. よく読む雑誌について(4つまで自由回答)

N (回答者数)	杉並区 (527)		浜松市 (453)	
	1位	『non-no』	36.0%	『non-no』
2位	『プチセブン』	17.8	『プチセブン』	24.4
3位	『Pop teen』	13.4	『egg』	21.9
4位	『SEVENTEEN』	11.7	『Pop teen』	16.4
5位	『CUTIE』	11.5	『SEVENTEEN』	13.1
6位	『egg』	10.4	『Cawaii!』	12.1
7位	『Cawaii!』	8.1	『CUTIE』	11.3
8位	『an an』	6.8	『JUNIE』	6.8
9位	『Zipper』	6.5	『Zipper』	6.4
10位	『ViVi』	6.1	『Myojo』	4.7
<参考>	『Myojo』(24位)	2.7	『an an』(13位)	4.1
	『JUNIE』(25位)	2.7	『ViVi』(16位)	3.7

## < 第二部 > 大人向け雑誌における < 女子高生 > 関連記事分析

### 研究目的と方法

第二部では、第一部の少女たちに声をかける男性の実態に関する調査を踏まえて、その背景にあると思われる大人向けマスコミの内容との関連性について考察することを目的とする。実際に、昨年度までの研究報告資料<sup>1,2</sup>にもあるように、90年代に入ると一般雑誌における<女子高生>を対象とした記事はそれ以前と比べ相対的に増加傾向にあり、またテレビなどでも頻繁に<女子高生>や「援助交際」に関する特集などが組まれていたことは明らかである。また特定の書き手たちによって議論が進められ、独特な<女子高生>のイメージが形成されていったということも想定され、これらのことが、女子高生に対する男性たちの行動やまなざしに変化を与えたと考えられる。そこで、昨年度までの研究と同様に、今次研究でも、大人向け雑誌の中で、<女子高生>がどのようにとらえられ、描かれているのかを分析することを研究目的として設定した。より具体的に言うならば、<女子中高生>が、単なる<記号>から性的に商品化されていくその変化を、大人向け雑誌の記事から抽出する作業ということになる。

なおここで提示される雑誌の資料は、大宅壮一文庫の雑誌記事検索サービスを利用して収集したものである。その際、件名として「女子高生」「少女売春」「10代の性」という主題のものを検索した。今次研究報告では、97年と98年の雑誌記事の資料を、昨年度の研究で収集した90年から96年までの資料に加えて分析した。

ただし、今次研究報告においては、昨年度までの研究報告を踏まえ、今後の分析のための基礎的あるいは予備的な分析にとどめ、全体的傾向の把握といくつかの視点からの分析の方向性を確認することに主眼を置くこととする。

## 90年から98年までの女子高生をめぐる雑誌記事数と語彙に関する考察

全体的な記事件数は1089件にもなった。またその年次推移は、93年と94年にまず一つのピークがあり、96年から98年にかけてもう一つのピークがあったということになる(表1)。その中でも97年の241件という記事件数は、特筆すべきものだろう。この背景には、96年頃から一般化しはじめた「援助交際」を問題化する記事の増加があると思われる。

また昨年度の研究と同様に、「制服(セーラー服)」「テレクラ」「ポケベル」「ブルセラ」「コギャル」「マゴ(孫)ギャル」「援助交際」という言葉がタイトルとリードに出現した頻度を調べた(表2)。以下の記述では、昨年度の研究を踏まえた上で、90年から98年までの女子高生をめぐる雑誌記事の傾向性を把握することとした。

制服(セーラー服):「制服」あるいは「セーラー服」という言葉は、90年から98年に至るまで一定の数使用されていたことがわかる。93年のブルセラブームによって取って代わられたかに見えたが、97年、98年ともに、「ブルセラ」という言葉よりも使用されている数は多い。これは、「ブルセラ」という言葉が、単に制服に言及する以上の意味を持ってしまい、さらに言うなら、それが否定的な意味合いを持ってしまったことを裏付けていると思われる。

テレクラ:「テレクラ」という言葉は、96年に12件と最もよく使われていた。しかし全体的に見るなら、タイトル及びリードで使われた件数自体は意外に少なかった。97年、98年とその後減少傾向にあるのは、既にテレクラ条例が施行され、テレクラと「女子高生」との結びつきが強調されなくなっていたことや、後述のように「援助交際」報道が増加した中で「テレクラ」自体は取り上げられなくなったことなどが理由として考えられる。

ポケベル:女子高生がよく使用していると言われるパーソナルメディアの一つ、「ポケベル」という言葉は、全体を通じて件数が少なかった。96年にピークを迎えたとはいえ、その後タイトル等で使用され

た数は減少傾向にある。実際普及数でも「携帯電話」「PHS」などに押される傾向にあるが、全体的にもパーソナルメディアとの関連で書かれている記事は思ったほど多くはなかった。

ブルセラ：93年と94年に計100件もの件数を誇っていた「ブルセラ」という言葉は、次第に使用されなくなっていく。97年、98年に至ってはリードを合わせても一桁に件数が激減する。昨年度の研究では、「ブルセラ」という言葉の出現とともに「制服」という言葉が少なくなったと指摘したのだが、上述のように97年と98年の傾向を合わせて考えれば、「ブルセラ」という言葉が、「制服」の代名詞になったのではないことが確認された。

コギャル：93年に出現した「コギャル」は、96年に47件、97年に67件とこの両年に集中して使われている。昨年度の研究通り、「コギャル」という言葉は、96年から97年にかけて、女子高生一般を指す言葉として定着したと言える。

マゴギャル：「マゴギャル」という言葉は、94年に現れ97年には使われなくなっている。昨年度の研究では、「コギャル」という言葉に付随したものとして、「マゴギャル」という言葉があるとしたが、上述のように「コギャル」が97年にさらに数を伸ばしているにも拘わらず、「マゴギャル」は件数がなかったのを考えると、「コギャル」という言葉が「マゴギャル」を包摂してしまったと考えるのが妥当であるだろう。

援助交際：96年段階までは、「援助交際」という言葉は、タイトル、リードにもなかなか出現しなかったのだが、97年にその数は増大する。1年間で98件という数は、93年の「ブルセラ」の59件をはるかに上回る数である。また前出の「コギャル」と一組となって使われることが多い。

(文責 苫米地 伸)

(表1) 全体記事数数の推移 (90~98年)

	90	91	92	93	94	95	96	97	98	合計
記事数	23	29	17	135	185	86	193	241	180	1089

(表2) <女子高生>をめぐる語彙のタイトルのびリードにおける頻度の年次推移

	制服	テレクラ	ポケベル	ブルセラ	コギャル	マゴギャル	援助交際
90	2	0	0	0	0	0	0
91	3(1)	1(1)	0	0	0	0	0
92	2(1)	0	0	0	0	0	0
93	15(4)	6(1)	5(1)	59(3)	2	0	1
94	4(2)	9(1)	2	41(3)	19(2)	6	0
95	3	5(2)	3(1)	14(5)	11(2)	7(2)	2(1)
96	22	12(4)	8(3)	10	47(4)	2	21(6)
97	5	8(6)	6(3)	3(2)	67(10)	0	98(16)
98	6(4)	1(1)	4(3)	5(2)	19(6)	0	43(5)

実数はタイトルとリードの合計件数、括弧内の数字はリードのみにその語が使用された件数

### 記名記事に見るジェンダー

記名記事とは「記事の書き手の名前が実名で記されている記事」である、ここでは定義しておく。記名記事には、その雑誌の記者が書いたもの、フリーライターが書いたもの、研究者などのいわゆる識者が書いたものがあるが、ここではそのすべてを含めて記名記事とする。そこで、私たちが90年から98年までの記名記事を手した雑誌を以下にあげておく。ジャンル名は、私たちが便宜上名づけたものである。

- ・情報誌：『ACROSS』『SAPIO』『DIME』『ターザン』『Bart』『ビジネス・インテリジェンス』『Views』『プレジデント』『マルコポーロ』
- ・新聞社および大手出版社系刊行の週刊誌：『AERA』『サンデー毎日』『週刊朝日』『週刊新潮』『週刊文春』『週刊明星』『週刊読売』『News Week』『SPA!』
- ・読み物系雑誌：『自由時間』『鳩よ』『週刊金曜日』『東京人』『潮』『噂の真相』『現代』『諸君』『月刊Asahi』『創』『太陽』『文芸春秋』『宝島30』『知識』『新潮45』『調査情報』『日経イメージ気象観測』『へるめす』『Number』『宝石』
- ・女性誌：『週刊女性』『女性自身』『CREA』『クロワッサン』『JUNON』『主婦と生活』『主婦の友』『女性セブン』『non no』『微笑』『婦人公論』

記名記事を調べると、書き手を男性/女性/男性+女性に分けることができる。今回の研究では基礎作業を行う。そこで、それぞれのジャンルで件数を調べてみた(表3)。書き手の数は男性の方が多いが、新聞社および大手出版社系刊行の雑誌においては女性の方が多くなっている。特に増えたのは97年になってからであるが、これは『サンデー毎日』において女性の書き手による連載記事が多かったこと、また『AERA』において女性の書き手(特に速水由紀子)が多くなってきているからであろう(90年から96年の新聞社系週刊誌の女性の書き手による記名記事は15件だったが、97、98年の2年間では30件にもおよんでいる)。また、93年から96年にかけて多かった、藤井良樹などの男性の書き手による連載記事や特集記事が少なくなっている。

いずれにせよ、女性の書き手による記名記事が増えているので、書き手のジェンダーによって果して<女子高生>に対する語り口が変わってくるのか、ということを経後の分析課題としていきたい。ただその際に、ジェンダーだけでなく、別の要因も働いているかもしれないことに留意しておかなければならない。その別の要因として考えられるのは、雑誌のタイプによって記事の書かれ方が違ってくるのではないかと、ということである。そうした要因を考慮にいれつつ、書き手のジェンダーによって記事の書かれ方が異なってくるのかどうかを今後は追究していきたい。具体的な分析方法については現在検討中である。

(文責 久保田 京)

(表3) 男性/女性/男性+女性別の記名記事件数

	男性	女性	男性+女性	合計
情報誌	78	28	6	112
新聞社系週刊誌	43	45	6	94
読み物系雑誌	30	18	4	52
女性誌	13	10	2	25
合計	164	101	18	283

<告白・座談会型記事>の質的分析に向けて

2年間の雑誌分析<sup>1,2</sup>を通じて目立った記事の傾

向のひとつが、思春期の女子たちが自らの経験を語るという形式のものである。ここでは便宜上それらの記事を<告白・座談会型記事>と名付ける。昨年行なった雑誌分析では、いわゆる「ブルセラ・ライター」による記名記事に注目し、それらが「ブルセラ現象」を煽ってきた一面があることを指摘したが、<女子高生>の記名性を高めるという点では、むしろ当事者が語る形式をとる<告白・座談会型記事>もその役割を担ってきたのではないかとこの分析を進める。

このような記事に注目した場合、当事者たちの<語り>の扱いが、男性向け雑誌あるいは女性向け雑誌でどのような傾向の違いを持つのか、また、こういった<告白・座談会型記事>に対して読者はどのような読みをしているのか、記事の編集過程や出版社の組織形態が<語り>をどのように構築しているのかなどさまざまな論点が出てくるだろう。しかし、考察を進める前段階として、こういった形式の記事が一体どれくらいの頻度で書かれているのか、また、現在それは増加傾向にあるのか、それとも減少傾向にあるのかなどその全体傾向を把握しておく必要があるだろう。したがって、本稿では<告白・座談会型記事>の概要を量的側面から把握することを目的とし、個別の記事内容の分析までは踏み込まない。

本研究では、我々が収集した<女子高生>関連記事(女子高生・少女売春・十代の性で検索した記事)の1990年から98年までの見出しにおいて「座談」「座談会」及び「告白」という語彙を含むものをカウントした(表4)。その結果、「座談会」を含む記事が76件、「告白」を含む記事が37件で合計113件であった。いわゆる「ブルセラ現象」が起こり、思春期女子に関する記事自体が増大する93、94年にこれらの記事も大幅に増加していることが確認できる。93、94年には女性向け雑誌では合計9件が見られるが、92年以前、95年以降には、女性向け雑誌においてほとんど見られない。それに対して、男性向け雑誌、大手出版社系雑誌においてはその後も継続して出現している。なお、98年における座談会記事の件数が突出して高いのは、『週刊読売』における連載が28回にわたって続いたためである。そ

の他にも、見出しに含まれていないか記事の中に「告白」や「座談」を含むものが多数あることや、「告白」に類するような「ザング」「日記」などの語彙とともに、思春期女子が個人的な経験を語るという記事が多数見られることを鑑みると、〈告白・座談会型記事〉は、男性向け雑誌におけるひとつの記事形態として既に定着しているものと考えるのが妥当だろう。

記事総数に対する〈告白・座談会型記事〉の割合から全体の傾向を考えると、90年代を通じて特に大きな変化は見られない。なお、90年における割合の高さが目立つが、これはサンプル数が少ないためあまり参考にならない。それよりも重要なのは、90年における記事のすべてが、比較的若年男性を対象にした『スコラ』におけるものであるのに対して、91年以降は『週刊宝石』『週刊現代』『アサヒ芸能』など、より年長男性を対象とした雑誌において見られるようになっており、90年頃を境にこういった記事を掲載する雑誌や読者の年齢層に変化が生じたことが考えられる点である。

これらの記事では、当事者たちの生の談話であることが繰り返し強調されている。しかし、実際には編集過程を経ているものであり、編集者の価値観や恣意性が多分に反映されていることに注目する必要がある。編集過程に注目した場合、例えばこれらの記事の多くが匿名記事が編集プロダクションによる制作であることは記事内容に影響を持っていると言えるだろう。このことは、記事のテキスト分析に加えて記事の生産過程とテキストとの相互作用を見ていく必要があることを示唆している。また、これらの記事が女性雑誌においてはほとんど見られず、特に成人男性を対象とした雑誌に顕著であることについても考察していく必要がある。彼女らが語る経験の多くが性的内容を含むものであるが、これは少女に対する男性の性的なまなざしを反映したものであると言えよう。

記事の量的分析を通じて、今後において追求すべき論点が浮き彫りになった。これらの論点を把握するために、記事の編集過程に関する調査と併せて記事内容の詳細な分析を進めていくことが必要である。

(文責 岡井 崇之)

(表4) 〈告白・座談会型記事〉の推移

	「座談(会)」を含む記事	「告白」を含む記事	計
90	2	3	5
91	2(1)	0	2
92	1	0	1
93	10(4)	6(1)	16
94	8(3)	7(1)	15
95	5	3	8
96	7	4(1)	11
97	8(2)	10(1)	18
98	33	4	37
計	76	37	113

見出しの中に「告白」及び「座談」「座談会」の語彙を含むものをカウントした。なお、一つの見出し中にどちらの語彙も含む場合は、それぞれをカウントしている。括弧内の数字は、その中で女性向け雑誌における件数を示している。

### 雑誌記事の〈語り〉の構造的把握に向けて

昨年の報告書<sup>2</sup>にて、私たちは〈女子高生〉関連記事の量的変化について確認した。〈女子高生〉について語られた記事は90年の時点においてさえずでに20件以上ある。そして、93年のいわゆる「ブルセラ騒動」を中心に記事が、一気に増大したことを見たのだった。しかしながら、特に男性週刊誌を中心とする記事の書かれ方については、「ブルセラ」に関する一連の報道の以前からほぼ同型のものに偏っているのではなかろうか。それは、女子高生であるのに性的な存在であることの問題点の指摘、とでも言うべきものである。そしてまた、このような描かれ方は実際に80年代にはすでに存在しており、その意味では90年代における雑誌記事の原型は、80年代以前よりさほどの変更を迫られていないと考えることができる。この点についての詳細な調査は、これまで行われておらず、今後の課題ともなる。

もう一方で、上記のごとき想定が可能だとしても、私たちは次のような疑問を抱くことになってしまう。すなわち、80年代以前とほぼ同様な記事であるのなら、なぜ93年来これほどまでに〈女子高生〉関連記事は増加したのか。それはまた、なぜ93年来これほどまでに読者は〈女子高生〉関連記事を消費したのか、という問いと等価である。

これらの問いに動機づけられながら、今回の分析

では「トレンドセッター」として描かれた<女子高生>像についての確認を行った。

なお、「トレンドセッター」をここでは、「流行の担い手」と定義し、また性的現象に関する「流行」に関する記事は除外した。したがって、「現在、女子高生には...が流行している」といった類の記事だけに限定し、年次推移を検証した(表5)。

トレンドセッター関連記事についての年次推移を追っていくと、94年および97年の2年が、その他の年と比べ突出している様が理解される。また、それ以外の年については、実はほぼ同程度の記事数しか上梓されていないことも、対照的に理解されるだろう。私たちは、これらをどのように意味付けていけばよいのだろうか。94年および97年の2年における、他の年との顕著な違いは次の点に集約することが可能である。すなわち、専門誌以外の記事数の増加によるものであるということ。いいかえれば、いわゆる流行観測に特出した専門性の高い雑誌(『DIME』『ACROSS』など)よりも、一般的な週刊誌(『FLASH』や『週刊文春』『週刊女性』など)における記事数の増加が、大きな要因をなしているということである。週刊誌での<女子高生>関連記事は、どうしても性的なものと結びつくと考えてしまいがちだが、以上のことを考えると、性的/非性的の差異なく記事数の増加が、週刊誌など一部のメディアを中心として繰り広げられてきた、と考えることもできる。その上で、なぜ94年と97年でなければならなかったのか、など詳細な部分については、来年度報告書に譲ることとする。

ただ少なくとも、現時点にて以下のことは言えるのかも知れない。私たちの考察は<女子高生>像を性的現象にのみとらわれることなく、90年代において一般化された語られ方の分析全般を必要とするのだと、「トレンドセッター」関連記事についての詳細な分析と同時に、それ以外の記事も視野に含めながら、今後追求していきたい。

(文責 花田 智弘)

(表5)「トレンドセッター」として描かれた<女子高生>関連記事の年次推移

	90	91	92	93	94	95	96	97	98
記事数	3	3	5	9	23	5	4	20	8

主として、記事見出しをもとにしつつ、抽出した。ただし、「性的」なものと「非性的」なものが混在されているものは件数から除外した。

## 主要週刊誌の新聞広告分析

雑誌、とりわけ週刊誌の広告というのは実に至るところで目にする。しかもそれらは、購読者以外の層に対してのインパクトもかなり持ち合わせているように思われる。例えば、週刊誌の新聞広告を例に取ると、それにはまず純粋に広告としての、さらには一つの紙面の中で一定のスペースを占める「記事」としての、これら2つの側面があるのである。購読者には両方の、購読者以外でさえ後者の側面をもってして、これらの広告内容が広く受け手のニュースソースとなっているのが現状であろう。よってここでは、90年代の「援助交際」という現象の、片方の主役である年長男性たちが主に読んでいるであろう週刊誌を中心に、どのような新聞紙面の中に、どのような形態の雑誌の広告が掲載されているのかを明らかにしていく。

### 対象とした週刊誌

- ・中年男性向け週刊誌：『週刊現代』『週刊ポスト』
- ・女性誌：『女性自身』『週刊女性』
- ・写真週刊誌：『FOCUS』『FRIDAY(臨時増刊含む)』『FLASH(臨時増刊含む)』
- ・青年男性向け週刊誌：『SPA!』
- ・情報誌：『DIME』

このうち『週刊現代』『週刊ポスト』の2誌を中心的な分析対象とする。そして比較対象として、発売日がそろっている女性誌2誌、そして写真週刊誌、さらに青年男性サラリーマン層向けで今回該当記事の多かった『SPA!』『DIME』といった週刊誌を扱う。なお分析の際は上記したカテゴリー別に行う。これら9誌のうち、90年代における「女子高生」「少

女売春」「10代の性」といった主題の記事の掲載号について、朝日新聞縮刷版90年分～98年分の中で新聞広告が掲載されている紙面をコピーした。該当記事数は313件、うち新聞広告の掲載があったのは222件であった。以下分析についてはこの222件を対象とする。(ただし『SPA!』については97年以降広告の掲載がなかったこと、そしてさらに質問紙調査で対象地としている浜松市で最も購読率が高い静岡新聞では、『FLASH』『SPA!』『DIME』の3誌の広告は2000年2月現在掲載されていないというのを付記しておく。)その上で、以下のような3点の分析を行った。

### 1. 新聞広告の記載内容(表6)

まず中年、青年共通して男性向け週刊誌では、ここで対象としている記事について、新聞広告の中でもその記載が多いといえる。女性誌と比べるとその差は歴然だろう。さらに中年男性向け週刊誌では、記載があった47件中14件がほぼ記事タイトルそのままの記載であり、他誌と比べて省略されることが少ないということも分かった。このことから、確かに女性向けでも男性向けでも、同じ出版社だったりライターが共通するなどして語り口が似通うことがあるにしても、そうした記事の雑誌の中における位置付けは違うのだということが見えてくるであろう。なお、写真週刊誌での記載が比較的少ないのはその余白の多い独特の広告形態に、また情報誌で記載が少ないのは小さな連載記事が多いことにそれぞれよる。

### 2. 新聞広告のサイズ(表7)

次に掲載されるサイズについては、中年男性向け週刊誌の新聞広告のサイズが特に、大きいことが多いということが分かった。その分より新聞読者の目をひくであろう可能性が指摘される。ただもちろん新聞広告のサイズは、同じ雑誌でも新聞によって異なることがあるので、その点は注意が必要である。なお、ここでいう「大」とは紙面の下の欄を横いっぱいにするサイズ、「小」とはその半分のサイズのことを指す。

### 3. 新聞広告の掲載紙面(表8)

そしていかなる紙面に掲載されているかについては、かなり対照的な結果になった。中年男性向け週刊誌では「スポーツ」面、写真週刊誌や情報誌では「政治・国際」「経済」面が多く、青年男性向け週刊誌ではそうした紙面と夕刊で半々、そして女性誌では夕刊がほとんどであった。また中年男性向け週刊誌では、「社会」面の割合も17件と高いが、このうちの11件が教育面であったことも付記しておく。今後はこうした同じ紙面の中での情報を、読み手がどう読んでいるのかという問題の考察をする必要があるだろう。

以上の結果から言えることとして大きくは、新聞広告にも「記事」としての側面があるのなら、中年、青年共通して男性向けの週刊誌のそれにおいては、<女子高生>関連の情報が他と比べ多く記載されていたこと、そしてそうした「記事」は新聞の中では、「スポーツ」「政治・国際」「経済」といった紙面に比較的固定されて掲載されていたのだということの2点があげられるだろう。これらをもとに、さらなる広告の分析、雑誌内容の分析、そして読みの分析へと展開していきたい。

(文責 辻 泉)

(表6) 週刊誌の種類と広告内記載の有無(単位:件数)

	なし	あり(うち記事のママ)	合計
中年男性向け週刊誌	11	47(14)	58
女性誌	26	5(0)	31
写真週刊誌	26	33(4)	59
青年男性向け週刊誌 (『SPA!』)	9	27(5)	36
情報誌(『DIME』)	24	14(1)	38
合計	96	126(24)	222

(表7) 週刊誌の種類と広告のサイズ(単位:件数)

	大	小	合計
中年男性向け週刊誌	46	12	58
女性誌	14	17	31
写真週刊誌	21	38	59
青年男性向け週刊誌 (『SPA!』)	0	36	36
情報誌(『DIME』)	13	25	38
合計	94	128	222

(表8) 週刊誌の種類と新聞掲載紙面(単位:件数)

	「政治・国際」 面	「経済」 面	「スポーツ」 面	「社会」 面	夕刊	合計
中年男性向け週刊誌	13	4	24	17	0	58
女性誌	0	0	0	1	30	31
写真週刊誌	22	17	11	9	0	59
青年男性向け週刊誌 (『SPA!』)	6	4	1	7	18	36
情報誌 (『DIME』)	9	13	10	6	0	38
合計	50	38	46	40	48	222

ここでの紙面の種類のカテゴリー分けは以下の通り。

- ・「政治・国際」面:主張・解説、政治、国際面
- ・「経済」面:経済、商況面
- ・「社会」面:社会 解説・企画 教育、家庭面 ラジオ・テレビ欄  
その他

主に紙面の最上段に白抜き文字で示されている分類にしたがった。分類の提示のないもの(特集面が多い)については、特集の種類のみ示があればそれを採用した(教育など)。

## 参考文献

<sup>1</sup>村松泰子、佐藤(佐久間)りか、斉藤文栄、平野 亜矢「少女雑誌の性情報と若年期のリプロダクティブ・ヘルス」(報告書)1998。

<sup>2</sup>村松泰子、佐藤(佐久間)りか、苔米地伸、平野 亜矢、岡井崇之「大人向け雑誌における『女子高生』の性的商品化と思春期女子の性行動の変化に関する研究」(報告書)1999。